

# 心房細動を早期発見！ 脳梗塞から 患者さんを救え！

自覚症状が少ない患者さんや予備軍の方に  
病気について知ってもらう施策を考えよう！

ジョンソン・エンド・ジョンソン（以下J&J）  
からの課題に挑むのは、法政大学の20名。  
「心房細動」という耳慣れない言葉に  
戸惑いを見せながらも果敢に取り組んだ  
1カ月あまりの成果はいかに！



最先端医療の一端に触れた  
オリエンテーション初日

初日のオリエンテーションは、J&Jが誇る医療従事者向けトレーニング施設であるJ&Jインスティテュートで開催されました。

最初に行われた企業紹介では、家庭用のバンドエイドやコネクタレンズ製品ばかりではなく、病院で使われる医療機器や医薬品を扱う包括的なヘルスケアのグローバル企業であり、世界をリードするエクセレントカンパニーであることが明らかにされました。また、同社の企業理念「我が信条 (Our Creed)」に基づいて事業運営がなされていることも印象的でした。

その後はCTや血管造影装置など、先端医療機器が並ぶセンター内を見学。腹腔鏡手術のシミュレーション装置を実際に体験するなどしました。

続いて、「心房細動」の危険性や、根治するための「カテーテルアブレーション」による治療法の説明がなされ、早期発見のための効果的な啓発施策について提案するというPBLテーマが発表されました。

最後に、これから始まるワークショップの足慣らしとしてグループワークを行い、会場を後にしました。

2日目は、各自がリサーチし

てきた課題に対するアイデアを発表し、チーム内で共有。それをもとに、ディスカッションを行い、提案の方向性を固めていきました。

ただ、扱うテーマが医療という高度なものだけに、学生たちは解決の糸口を見つけないまま、苦悶を覚えた。しかし、ファシリテーターから紹介されたいくつかのマーケティング事例がヒントとなり、光明を見出したようでした。

3日目には、プレゼンテーション資料のまとめ方について基礎的なガイダンスを受けました。その後、提案内容をまとめたが、中間発表に向けてスライド作成作業に入っていました。

4日目は企業担当者を迎えて中間発表を実施。そこで得たフィードバックや多くの意見をもとにブラッシュアップを続け、5日目も同様の作業を時間の許す限り続けていきました。

本来なら、5日目のワークショップで作業は終わりだったのですが、まだ納得のいかない大半のチームは、最終日のプレゼン前に自主的に集まり、最後の仕上げを行いました。

### 成果発表の結果は？

そして迎えた最終日。同社の幹部や各部門の担当者の前でプレゼンテーションがスタート。学生たち全員が、1カ月以上の時間をかけて取り組んできた成果を発揮しようと、熱い情熱と冷静な態度で発表に立ちました。

## オリエンテーション | 企業 → 学生

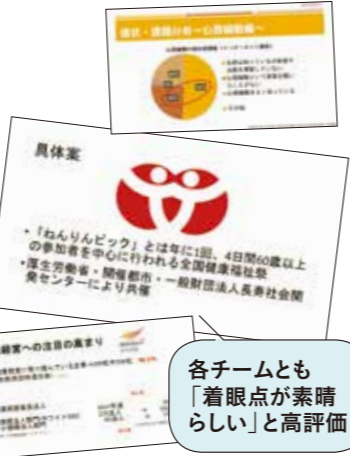


心房といわれる心臓の上の部屋が小さく震え、十分に機能しなくなる不整脈を「心房細動」といい、脳梗塞などの病気を引き起こす原因となります。J&Jでは心房細動等の頻脈性不整脈治療用に、低侵襲で負担の少ない「カテーテルアブレーション」機器の開発や、医師向けのトレーニングプログラムを提供していますが、心房細動は自覚症状がない無症候性が4割を占め、発見が遅れやすいという問題があります。そこで、早期発見につながる施策を企画提案するという課題が出されました。

## 低コストなSNS戦略



InstagramにJ&Jの公式アカウントを設置し、多くのフォロワーを持つインフルエンサーに闘病記などをコミックエッセイにってもらうことで、心房細動の認知度向上につなげることを提案。また、心拍計とアプリを連携させ、利用時間やログイン回数などに応じてポイントを付与するインセンティブも活用。



各チームとも「着眼点が素晴らしい」と高評価

## プレゼンテーション | 学生 → 企業

チーム名 わっしょい

提案 **ねんりんピックで  
心房細動の認知度アップ**

心房細動の認知度の向上のために、高齢者が参加するお祭りをタッチポイントとすることに着目し、協賛イベントを開催。その一例として各県持ち回りで開催されている60歳以上を対象とした健康と福祉の祭典「ねんりんピック」会場にブースを設置。検脈やカテーテル体験などを通じて、啓蒙活動を展開することを提案。

【参加学生】川井由美、北野杏奈、後藤啓介、小林哲也、馬場仁菜



チーム名 I&I

提案 **40～50代から始める  
心房細動の早期発見！**

InstagramにJ&Jの公式アカウントを設置し、多くのフォロワーを持つインフルエンサーに闘病記などをコミックエッセイにってもらうことで、心房細動の認知度向上につなげることを提案。また、心拍計とアプリを連携させ、利用時間やログイン回数などに応じてポイントを付与するインセンティブも活用。

【参加学生】樋口寛明、加藤彩香、武井かすみ、南澤英里香、神谷一慶



チーム名 Checkup

提案 **健康診断の待ち時間に  
啓蒙活動を展開！**

健康診断のすき間時間を有効活用し、①パンフレット配布、②スマートフォンでセルフチェックシート入力、③デジタルサイネージによる動画の上映などで、心房細動や脳梗塞についての啓蒙活動を展開。健康診断とカテーテルアブレーション治療の両方を実施している都内39病院においてトライアル実施することを提案。

【参加学生】岩井美樹、池田聖華、藤井直輝、古塩悠夏里、堀田真央



チーム名 ゆたかなひ

提案 **スマートウォッチで  
健康意識と企業価値向上**

J&Jの全従業員に心拍計測機能が付いたスマートウォッチを配布することを提案。社員自らが継続的に計測を行うことで、不整脈などの早期発見や、健康経営上のメリットにつなげることを期待。また、話題性のある施策ということで、世間への認知度向上や他企業への波及というPR効果も狙った内容。

【参加学生】土屋柚衣、濱田泰輔、松澤果歩、藤本夏知、小林寛子



初日は手術機器  
やリアルな人工  
臓器などを見学



PBL2日目～5日目は法政大学市ヶ谷キャンパスを会場にワークショップを開催。今回、課題説明を行ったJ&Jの隈本史昭さんを迎えて中間発表を行い、貴重な意見やアドバイスをいただきました。

和やかな雰囲気  
のなかでワーク  
ショップに集中



## PBLを終えて

国際文化学部  
国際文化学科3年  
小林寛子さん

留学経験があり、外資系企業に興味があったことから参加しました。意見やアイデアを出し合い、提案として集約していくプロセスが楽しかったですね。医療業界が身近に感じられ、興味や視野が広がるきっかけとなりました。

バイオセクス  
ウェブスター事業部  
隈本史昭さん

マイナスイメージの病気についての認知度を上げることは大変だったと思いますが、想像以上の出来で驚きました。裏付けとなるデータなども充実しており、中間発表時と比べるとそれぞれ苦労の跡がうかがえ、目覚ましい成長ぶりでした。

### University

#### 法政大学



1880年創立。「自由を生き抜く実践知」を憲章に掲げ、主体的、自立のかつ創造的に、新しい時代を構築する人材の育成に努めている。

### Company

#### ジョンソン・エンド・ジョンソン



家庭用から医療用まで、幅広く高品質なヘルスケア製品とサービスの提供を通じて、世界中の人々のヘルスケアを支えるグローバル企業。